高知
【会員発表篇】
木の家ネット第15回総会
KOACH
大会報告

今回の総会での会員発表は、５時間にもおよびました。

1 2 3

Like 0　ポスト

土佐の魅力満載 充実の高知総会！

第15期の総会は、11/23-24に高知で行われました。前日の11/22には、奈半利町での「伝統構法を無形文化遺産に」の関連イベントとしてのフォーラム、当日の朝に高知城や日曜朝市への散策、24日には牧野富太郎記念館、安岡家住宅、沢田マンションなどの見学ツアー、そして、藁で焼いた鰹のタタキや皿鉢料理など、高知の魅力を満喫した、すばらしい３日間でした。現地幹事としてすべてを用意してくださった沖野建築の沖野誠一さん和賀子さんご夫妻、運営委員としてサポートした和田洋子さんのがんばりと心配りのおかげと、心から感謝しています。この高知での充実の総会の報告を「会員発表篇」「見学篇」と二回に分けてお届けします。

「総会中の総会」での 濃密な情報交換

今回お送りするのは「会員発表篇」。木の家ネットでは、見学や宴会以外に、年に一度集まる会員同士がじっくりと情報や意見を交換する時間を、総会の核心として位置づけています。この時間は例年、時宜にかなったテーマについて、その話題に明るい会員が発表をしたり、グループに分かれての作業や意見交換を通して学びを深め合ったりする、充実した濃密なもので、これを時間を体験した会員は「また来年も総会に行こう！」という思いをあらたにするのです。

27名の会員が発表に！ 人材の厚みを実感

今期の会員発表は、20015年11月23日の14時から19時まで、海辺の果樹園ホテルの一室で行われました。「なるべくたくさんの会員に発表してもらおう」ということで、木の家ネットに参加したばかりの会員さんや各地で活躍する会員さんにあらかじめ声をかけ、普段の仕事ぶりや地域での活動の写真などを用意してもらいました。発表者は、のべ27名。80名以上の参加者が畳の広間に座布団を並べて「おしくらまんじゅう状態」でぎっしりと膝を突き合わせて座る中から、発表者が入れ替わり立ち替わり前に出て語る、内容豊かな、熱い時間となりました。

第一部 新入会員さんほかの自己紹介

まずは、入会したての新会員さんが、それぞれの仕事ぶりや木の家ネットに入会した経緯を発表しました。

杣耕社 山本 耕平さん（岡山）
杣耕社 ジョナサン・ストレンマイヤーさん（岡山）

トップバッターは、岡山で二人で石場建てにこだわる杣耕社を営む山本 耕平さんとジョナサン・ストレンマイヤーさん（通称ジョン）。鹿児島のある旅館の改修のためのプレゼンテーションのためにつくったイメージ写真で、時を経て美しさを増す本物の美しさを見せてくれました。

右側がジョンさん、奥が山本さん

ジョンさんは、アメリカから日本建築に魅せられて来日、数寄屋建築の修業をしたのち、山本さんと出会い、杣耕社に参加。石場建てに出会って、日本の木造建築の真髄に触れたという想いを、熱く語りました。

「ハツリ」作業をする山本さん

下地工務店 下地史浩さん（山口）
田中大工店 田中龍一さん（神奈川）

続いて、山口県岩国市で工務店を営む下地史浩さんが建て主やほかの職種の仲間たちとの信頼関係を大事にした仕事をしている様子を、紹介してくださいました。米軍基地があり、木造が弱い土地柄ですが、近くの会員とつながりながら、木の家のよさを広めていくような活動をしていきたいという希望をもっていると語られました。長崎出身で数寄屋や社寺の修業を経て神奈川で独立した田中龍一さんは、今後、木の家ネットの会員に刺激を受けながら、住宅で無垢の木の仕事を展開していきたいという意気込みを示されました。

下地さんの仕事例

有限会社ブローブ 小澤啓一さん
森田水工 森田敦彦さん（神奈川）

次に発表した神奈川のお二人は、木の家ネットに参加する初めての職種の方たち。タイル職人の小澤 啓一さんは、「だんご張り」という工法にこだわった施工例を見せてくださいました。タイルやレンガできれいに仕上げたカーポート、擁壁、お風呂など、さまざまな場面で、タイル仕事が光っています。

だんご張りによる擁壁の補修

水道屋の森田さんは「出来上がってしまえば隠れて見えなくなる仕事ですが、工夫して、丁寧に施工しています」という語りました。木を組む家づくりの現場が好きで、棟上げを手伝っていたりすることもあるとか。木の家づくりは、さまざまな職種に支えられるチームがあってこそ、成り立つことを実感しました。

「これ、俺です！」水道屋さんが建前にしっかり参加しています。

東原建築工房 東原 達也さん（三重）

三重の東原 達也さんは、地域の小さな薬師堂を、身近にある材料で、子ども達にも墨付け、上棟、小舞編み、土壁塗りと、さまざまな場面で関わってもらって造った事例を紹介してくださいました。ちょうどその日の朝、そのお社の竣工祝いを終えて、かけつけたところでした。真珠の貝殻を砕いたものを塗り壁の材料として使うという志摩ならではのエピソードも興味深かったです。

AA STUDIO 橋詰 飛香さん（愛媛）

続けて、これまでの総会で発表することのなかったお二人に普段の仕事ぶりを発表していただきました。愛媛の橋詰飛香さんからは、化学物質過敏症の方のための「CSはうす」を、住まい手もセルフビルドで参加しながら木組み・土壁・石場建てで完成させた事例の紹介がありました。大学の研究者と共同して「空気質調査」をしているそうです。家づくりが目には見えないけれど「空気」をつくっていることに、住まい手の方に気がついてもらうこと、木や土が「きれいな空気」を発しているということを積極的にアピールしていく必要を感じました。

化学物質過敏症の人のための家と、その見学会の様子。

木組み土壁の家づくりを知ってもらうために職人さんに講師を依頼して開いている「家づくり塾」や、家づくり以前に、暮らし方そのものを伝えていくために味噌造りイベントなどもしているという報告もありました。

淡路工舎 藤田 大さん（兵庫）

淡路島で工務店を営む藤田大さんは、淡路島を含め、広い範囲にわたって社寺の仕事をすることが多いのですが、現場の合間に少しずつ進めているので「なかなか完成しない」とご本人が言う自宅の建築や、近くでの増改修の施工の様子も紹介してくださいました。伝統構法は、社寺であっても住宅であっても、直す仕事でも、木を活かすように組み、丁寧に仕事をするという点においては、同じ、という想いを語ってくださいました。

藤田さんの仕事

第二部 各地での活動紹介

その後、各地でのさまざまな活動の紹介が続きました。きびしくタイムキープをしながら進行したのですが、発表者一人一人は、それぞれの持ち時間が足りなくなるほど、めいっぱいの発表で、木の家ネットの人材の厚みをあらためて実感する時間となりました。

くむんだー
川村工務店 川村克己さん（滋賀）

「くむんだー」は、木組みのジャングルジムです。滋賀県で「湖国の木の住まいづくり」をアピールするイベントに出展するのに「家の写真をパネル展示をしても効果が少ないだろう」と考えた川村克己さんが、子どもが遊びながら楽しんで木組みを体験できるものとして考案しました。柱を立て、貫でつなぎ、楔で止め、軸組を造っていきます。川村さんは、４トントラックに「くむんだー」のセット一式を積んで、奥様をともなって各地でのイベントに参加しています。

「くむんだー」の仕組みはとてもシンプル。子ども達がどんどん自主的に作っていけるのが、ミソ。

「京都の清水寺の舞台も、これと同じ昔ながらの大工技術で造られているんですよ」などと、親子連れにも声をかけながら、自然と入ってきてもらい、親子連れにも楽しんでもらえるのが「くむんだー」のよさ。開催地でお手伝いスタッフとして関わる、普段は木組みに触れることのない人にも、知ってもらうきっかけになります。参加者に安全にためにかぶってもらうヘルメットにも「伝統構法を無形文化遺産に」のシールを貼って、さりげなくアピールしています。

若いお母さんに声をかけて参加してもらうためのトークを、寸劇で再現！

「くむんだー」は滋賀から埼玉へ、埼玉から三重へと飛び火しながら、広がっていっています。そんな様子も、三重の東原さんや埼玉の綾部さんから報告されました。木の家づくりや日本の大工が伝えて来た建築技術を世の中に浸透させていくポテンシャルを持つ「くむんだー」の今後の広がりが期待されてます。

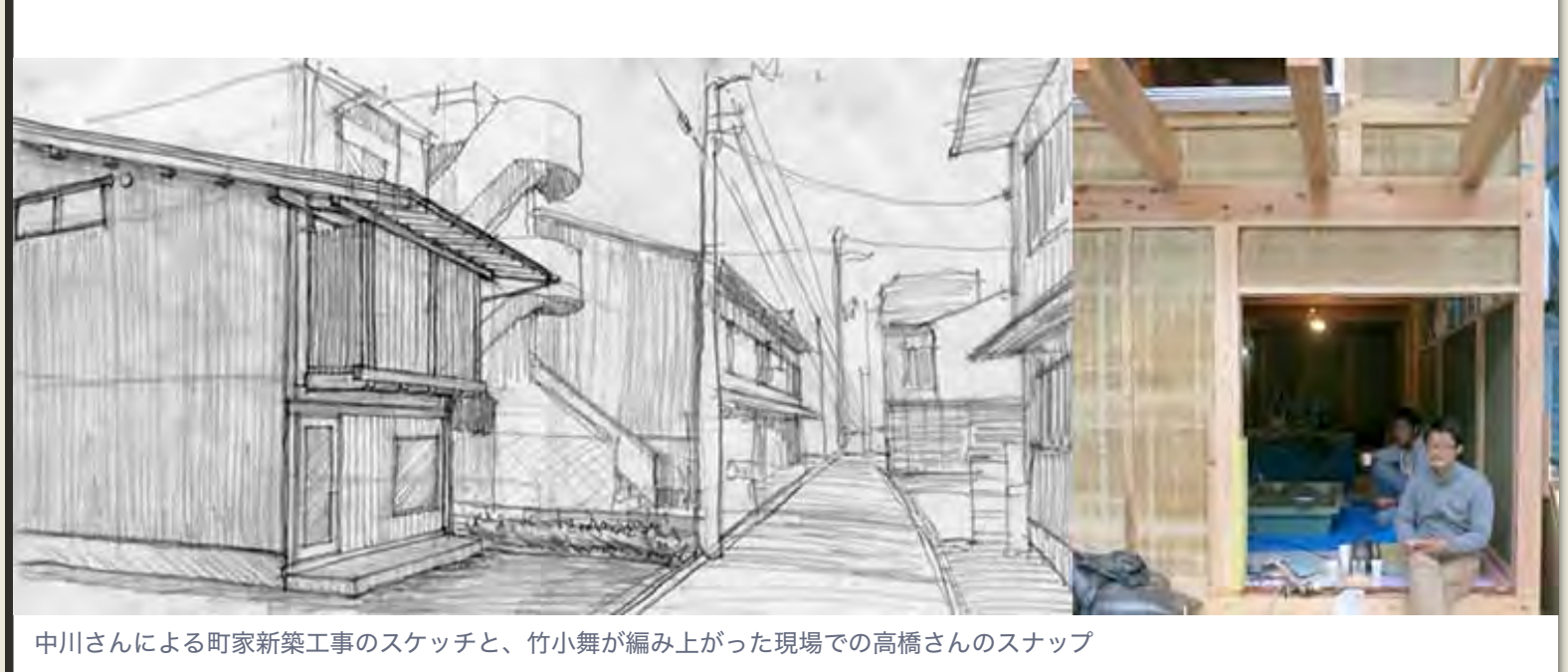
京都の現場より
大下建築 大下尚平さん（京都）
中川幸嗣建築設計事務所 中川 幸嗣さん（京都）

京都の大工の大下尚平さんからは、京町家の再生事例の発表がありました。歪みや傾きがでてきている町家でも、柱をあげてレベルを揃える「あげまい」や、軸組の傾きを直す「いがみつき」で家の姿勢をしゃんと整えることができます。

町家では、壁を隣家と共有しているような状態もあり、長屋状に並ぶ三軒、五軒を、いっぺんに改修できるように話をまとめていくことが苦労するところですが、それがうまくいけば、街並としての再生につながります。古い町家、櫛の歯が抜けていくようにがいとも簡単につぶされていますが、このような技術をもった大工の手で、町家のもっている美しさはそのままに、今の生活に合わせて住みやすく直せるのを知ってもらうことが、京町家の街並存続のために必要だと感じました。

このように何軒も連なって建っている例も多い。（写真左）。大下さんが再生した京町家

同じく京都で設計をしている中川幸嗣さんからは、長野の妻籠の宿の例にならった木と土壁による町家の新築事例の紹介がありました。施工は木の家ネットの仲間の高橋憲人さん（大高建築）です。京都市内でも新築での土壁は珍しいそうですが、小舞を編んだ状態で行った見学会も好評でたくさんの来場者から反響があったそうです。施工中も通りがかる人も目を止めていくことが多く、中川さん自身にとっても、大きなやりがいのある仕事だったそうです。



中川さんによる町家新築工事のスケッチと、竹小舞が編み上がった現場での高橋さんのスナップ

明治座改修の報告
川端建築計画 川端眞さん（滋賀）

滋賀の川端さんからは、昨年の岐阜の総会で訪れた加子母の明治座の「平成の大修理」の完成報告がありました。修理の内容としては、耐震補強と、クレ葺き石置屋根の復活があります。瓦屋根から往時の姿に蘇ったことで、この地域らしい外観の芝居小屋となっただけでなく、地域の技術の伝承の機会ともなりました。

耐震改修では、まず、柱が沈んでいたり、軸組が傾いていたりする箇所がたくさんあったので、さきほどの京都の例と同じく、持ちあげて根継ぎしたり、よろびを直したりしました。また、地震時の揺れを一定値（1/15rad）以下に抑えることを目標に、極力金物に頼らない、木組みのめりこみを活かした耐震補強をするために、限界耐力計算を用いた設計をし、最小限の板壁補強で実現することができました。明治座で演じた役者の直筆サインが残る古い板壁はそのままに残し、ベニヤが打ち付けてあったようなところを交換することで、うまくいきました。川端さんとしては、完成後の見学会で「前と変わってないようだけれど、どこを直したの？」と言われたのが「何よりの褒め言葉に感じた」そうです。

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2019年6月15日 やさしくて強い、理想の家を求めて：アイ設計研究室 大前泰秀さん
2019年5月15日 磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所　西岡健一さん
2019年4月20日 大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん
2019年4月10日 本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽　高橋一浩さん
2019年1月5日 新春特集 2018年のベストショット集
2018年12月29日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声＆今後の課題編
2018年12月17日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編
2018年12月14日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
2018年9月4日 番匠 剱持工務店 副棟梁・剱持大輔さん
2018年8月15日 鶴岡総会予告 その１　散るより、生き延びよ！

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 18件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 9件のビュー
大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー
大工・高橋俊和さん(都幾川木建)：初原の営みに魅せられて 8件のビュー
工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー

この記事のタグ
このまちなみを次世代に
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2012年11月30日 第12期木の家ネット総会 栃木大会
2009年1月26日 伝統木造設計法構築に向けて、実物大実験！
2008年11月28日 第八期木の家ネット総会・小江戸川越大会のレポート
2004年10月25日 NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！
2009年10月6日 第三回これ木連フォーラム「伝統構法はこれからどこへ向かうのか？」の報告

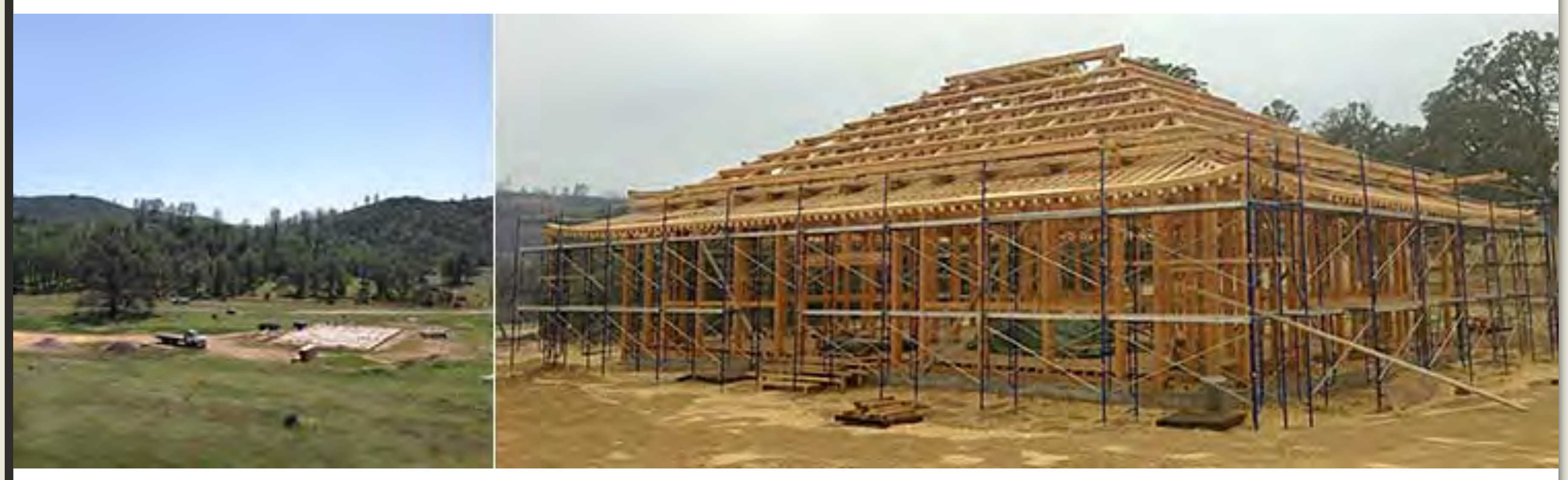
今回の改修の特徴であるクレ葺き石置屋根（左下）と、基礎の根継ぎ補修（右下）

現行の構造設計基準を一律に適用しての鉄骨による耐震補強は、歴史的伝統構法建造物の構造特性を無視した力技であり、伝統構法を次の世代に引き継ぐことになりません。その建物がなぜ百年以上も残ってきたのか、その理由を考え、先人が伝えてきた技術を生かす補強をする。そのような方向でなされた、すぐれた改修例といえるでしょう。

カリフォルニアでの僧堂建築

丹建築 丹羽怜之さん（三重）

三重の一峯建築から去年独立後、アメリカのカリフォルニア州レイク郡に渡り、禅宗の天平山僧堂の建設に関わった丹羽さんからの報告がありました。ここには、ご本尊のある仏殿はまだありません。僧堂が最初の建築物となります。アメリカには正式に禅の修業ができる施設がないので「まずは、座禅・食事・就寝の場である僧堂から」となったそうです。



建築前の天平山と、建設途中の僧堂

アメリカでは州ごとに、日本の建築基準法以上に細かく、厳しい建築の規制があり、それに則っての設計が現地でなされ、その施工に丹羽さんが携わることになりました。ベースはトラス構造ですが、僧堂らしい屋根ができあがりました。材料は日本から船便で輸送し、そのコストが相当かかったようです。丹羽さんが帰る間際に大規模な山火事がありましたが、天平山はなんとか難を逃れたそうで、よかったです。

Like 0 ポスト

1 2 3

途中、２度の休憩をはさみ、熱気あふれる発表が続きました。

関連する記事はこちら

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり

鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る

NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！

設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

このまちにずっと残っていてほしいあの家も「既存不適格」？

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

高知
【会員発表篇】
木の家ネット第15回総会
KOACH
大会報告
沖野建築
84大住の大工

高知総会は、地元沖野建築の沖野誠一・和賀子さん夫妻（中央・右）と、岡山の設計士 和田洋子さん,奮闘で実現しました。ありがとうございました！

1 2 3
Like 0　ポスト

第二部 各地での活動紹介（続き）

ハツリが熱い！

不動舎 宮村 樹さん（奈良）

のじま家大工店 野島 英史さん（山口）

☒鉋で材を削った薄さをミクロン単位で競う、競技会「削ろう会」が大工たちのお祭りとして人気で、今年の５月の神戸大会は、一般の来場者も多く、最大規模を迎えました。日本の伝統的な大工技術を支える道具とそれを使いこなす技術が注目されるのは、嬉しいことです。

社寺建築の親方として勢力的に関西圏を飛び回る宮村さんは、「ハツリ」と呼ばれる、古くからある製材技術の復活に関わっています。チョウナという、手前に曲がった木の柄の首に刃がついた斧やヨキなどを使って大工自身が製材するこの技術は、平安時代の大工仕事を描いた絵巻にも登場します。大鋸や製材機ができる前は、これが丸太を製材する唯一の方法でした。

ハツリ作業中。鱗のような刃跡が見える

ハツリによる製材では、材の表面に、無数の刃跡が残ります。それが鱗のようにも波のようにも見え、鉋で真っ直ぐに仕上げたのとはまた別の味わいがあります。「削ろう会」から派生した「はつろう会」が年に一回の集いとして始まり、2015年に二年目を迎えましたが、宮村さんは、日常的に腕を磨いていく大工同士の技術研鑽として、月一回の「大和宝匠会」を始めました。今後、実際に社寺や住宅の見えるところに使っていけるようなルートを開拓したい、チョウナ以外にも、ヤリガンナや大鋸などの使い方や目立てなどの技術もつないでいきたいとのことでした。

ハツった板のサンプルが総会会場をまわる。表面の手触りが、なんとも言えず、いい。

広島の福山で工務店を営む野島さんは、地元の過疎の島のビーチで、はつり会をしました。大工技術の研鑽という目的のほかに、大工がひとりも居なくなってしまった島に大勢の大工が集まることで、地元の活性化をはかろうというねらいもあったそうです。観客も集まり、地元のカフェが仕出しをするなど、賑やかな二日間となりました。

海辺での、ハツリ会の様子

84大工の会

沖野建築 沖野 誠一さん（高知）

今回、幹事という大役を果たした沖野さんから、地元高知での「84プロジェクト」ついてご紹介いただきました。これは、森林率が84%という高知県の木を生活のあらゆる分野で使っていこうというもので、沖野さんは「84大工」として、高知の山から伐りだした木、草からつくった和紙、山の土を活かした家造りをしています。大工として単独ででなく、暮らしを総合的にとらえ、まるごと発信しようと、つねに広がりのある活動をしているのが、沖野さんの素晴らしいところです。

84
はちよん
PROJECT
いちばん森が多い国＝高知
Forest percentage＝84％

84プロジェクトの参加メンバー。中央上の写真で、沖野さんと共に歩いているのがロギールさん。中央下の写真で右側に写っているのがジョンムーアさん。右の写真は地元の若者に伝統構法を教えている沖野さん。

高知県に自生するコウゾやミツマタの繊維から手漉き和紙をつくるロギールさん、槙原という山奥の集落で在来種の継承につとめる「シードバンク」活動をするジョンムーアさんなどの協働により、高知県の自然の恵みで成り立つ「和の暮らし」文化を普及するためのイベントも勢力的に行っています。今回「伝統構法を無形文化遺産に」のフォーラムと木の家ネットの総会を二泊三日で実現できたのも、このようなイベントを頻繁に開催してきた沖野さんご夫妻の人脈やバイタリティーがあってこそのこと、と窺い知ることができました。

込栓角鑿機の復活にむけて

だいかね建築 金田 克彦さん

手刻みの仕事に欠かせない電動工具でありながら、廃盤になって久しい込栓角鑿機。その復活を願って木の家ネットで集めた署名で、伊勢の松井鉄工所が試作機の作成へと動きはじめてくれました。

そもそも、この話が出始めたのは、ちょうど前回の総会の直後。愛知の小田貴之さんから木の家ネットのメーリングリストへの「込栓角鑿機が手に入らなくて、困っていませんか？」という問いかけがきっかけで、それが、このような広がりへと結びつきました。試作の一号機の動作状況をおさめた動画を、みんなで見ました。

試作機のビデオを前に、話をする金田さん。

みなが口々に意見を出して金田さんがそれをまとめていましたが、使い勝手については、ユーザである大工たちが松井鉄工所に出向いて、設計チームと実地での意見交換が必要、という話になりました。金田さんが会場に「松井鉄工所に行きたい人！」と声をかけると、大勢の手が挙がりました。まずは、総会で出た意見を整理して先方に届け、松井鉄工所への訪問につなげていきたいところです。

ほかにも「チェーンのみ」「大入れルータ」「大型ホゾ取り」など、廃盤になっていたり、廃盤のおそれがある工作機械や、機械の替え刃など、危機的な状況にあるものがいくつかあります。使い手と作り手とが顔の見える関係でつながっていくことで、伝統的な仕事をするための伝統工具を存続させていくことができますように。

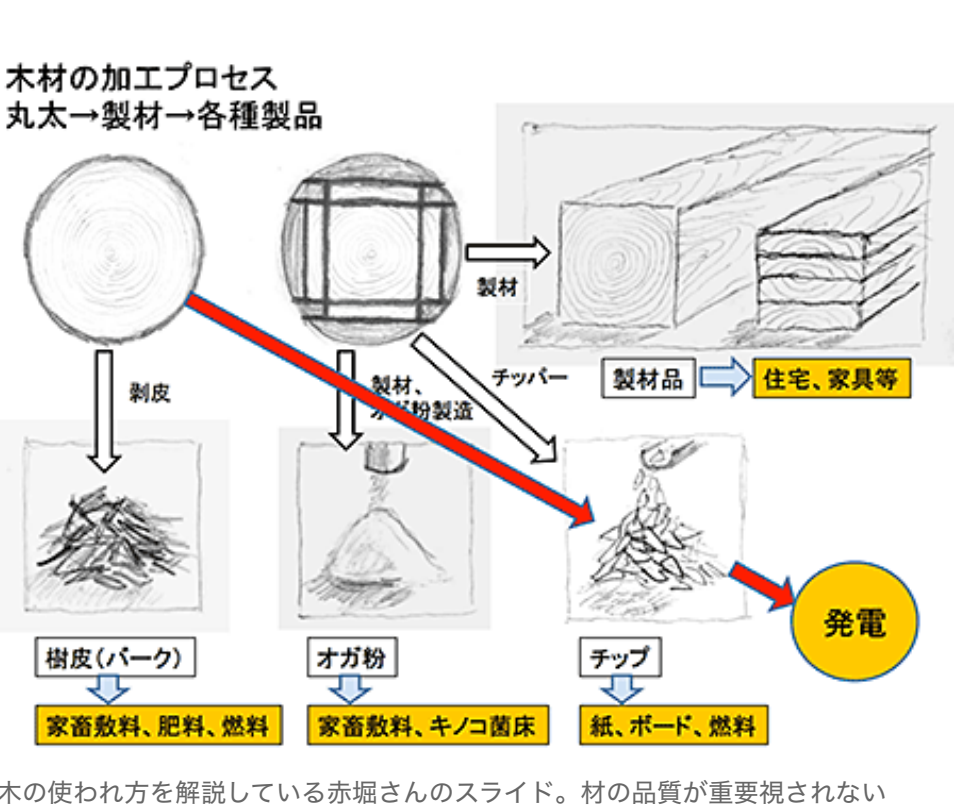
> **この時に出た主な意見：**
>
> 穴をあけるところを狙いやすいこと、合わせやすいことが肝腎。
>
> 角ノミが入る瞬間に機械が若干傾いているように見える。支える軸がもう少し太くてもいいかも。
>
> 自動昇降でなく、手でおろすようにできた方が、細かい調整が利きやすく、使いやすい。

林材関係情報

林材ライター 赤堀 楠雄さん（長野）

赤堀さんからは、林材関係の最近の動向をうかがいました。木材の自給率は、このところ上がってきているものの、その中身を見てみると、ニーズが高まっているのは、合板や集成材の原料にする低質材ばかり。合板や集成材は、無垢材と違って、工業的に加工することで価値を創出するので、原材料の質よりもコストの抑制が最優先されるからです。低質材の需要ばかりが伸びると、山で長い時間をかけて木を育てたり、よい木を選ぶ技術が廃れ、結果的に山は荒れていってしまいます。

木質製品はまだしも、最近では、樹皮や原木を粉砕したチップを燃やして発電するバイオマスエネルギー利用のニーズが伸びています。その木がどれほど手をかけて育てられてたのかや、木材そのものの質が問われことなく、移動式の粉砕機で一瞬のうちに処理されていく映像を見て、なんともせつない気持ちになりました。



木の使われ方を解説している赤堀さんのスライド。材の品質が重要視されない使われ方が増えている。

このような厳しい状況の中で、無垢材に付加価値をもたせるために山側がどう取り組んでいるかについてまでは、時間切れで話を聴くことができず、残念でした。機会があれば、レポートをお願いしたいところです。長い目で見て山を育て、質のいい製材品をつくる努力をしている山と、無垢材のよさを生かした家や家具をつくる人が結びつき、その価値を理解してもらえ人を増やしていくことの大切さをあらためて実感させられる報告でした。

秘密基地サルシカ

木神楽 高橋 一浩さん（三重）

サルシカとは、平成20年に創立された、地域を元気にする活動を展開する三重の特定非営利法人で、三重県津市美里町平木区という山奥の集落で「サルシカ秘密基地」という地域振興プロジェクトを実践しています。大工としてこのプロジェクトの「場づくり」に当初から関わっている高橋一浩さんから報告がありました。

最初に行ったのが「秘密基地」を造るというイベント。高橋さんが段取りをし、大勢の参加者が丸太を立て、梁でつなぎ、屋根をかけて、掘立て小屋を造りました。できあがった基地に作った竈や窯を活用して、毎週日曜日の朝、地元のお母さんたちが「平木やまびこカフェ」を運営しています。石窯パンが好評で、人口わずか94人の山奥の集落に、毎回60人ほどの来客があるというのですから、驚きです。

トレーラーハウスの横に掘立柱を立て、屋根をかけた「秘密基地」は、カフェになりました。右の写真はオープン時のもの。

さらに、耕作放棄地を借り受け、平木区の方を講師としての農業研修もはじまり、２名の研修生が農作業をしています。収穫した米や野菜は、カフェで使われています。今後は、都市部住人への農地の貸し出しも検討しているそうです。何もなかったところに、みんなで「場づくり」をする。そこに集う輪が、さらに広がっていく。そのようにして、楽しく、自然と、賑わいが生まれています。

学生たちとの活動、ジブリとの連携

工作舎 中村 武司さん（愛知）

次に、本業の大工以外に、教育や広報といった面で、木の家づくりを伝えていく活動をしている中村武司さんから報告がありました。

中村さんは、母校の名城大学で建築を教えています。そのゼミの実習で、取り壊す寸前の状態にあった昭和の家をほぐし、再生させることに取り組んでいます。大学教育では、木造の実習が組み込まれていることは滅多にありません。自分たちで解体し、コンクリートを打設し、土壁を塗るという体験に、学生たちものめりこんでいたようです。できあがった「あじまの家」はコミュニティスペースとして活用されていくそうです。

左から、あじまの家（写真：笹倉洋平（笹の倉舎））、９歳の家づくり、スタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーとの取材

また、シュタイナー学校で「９歳の家づくり」の指導してもいます。子ども達が自分たちの手で伐採した木の皮を剥き、組み上げ、屋根をかける。伐り出した竹を割り、小舞を編み、土壁をつける。仲間達と家づくりの基本を体験したことは、子ども達の心に強く印象を残したことでしょう。

体験ということで、もうひとつ。中村さんたちがスタジオジブリの依頼で「愛・地球博」の会場に「となりのトトロ」の舞台となった「サツキとメイの家」の建築を手がけて10年が経ちます。それを記念して、スタジオジブリで発行する月刊誌「熱風」に「サツキとメイの家の10年」特集が組まれたのですが、その取材に際し、中村さんはスタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーに、木の家の現場や木の伐採、土壁塗りなどを二日間にわたって体験してもらいました。木と土の家づくりの大切さを実感した鈴木プロデューサーは、機関誌「熱風」に継続的に木造建築の連載を組んでくれることとなりました。

木の家ネット埼玉

綾部工務店 綾部 孝司さん（埼玉）

☒埼玉の綾部さんからは、2008年に川越で総会を行った実行委員会が母胎となり、2012年に「木の家ネット・埼玉」をたちあげて継続的に活動をしていることの報告がありました。

「木の家づくりが広まっていかないのは、その良さが知られていないから。ならば、自分たちの地元でその良さを積極的にアピールしていこう」というのが、この会の主旨です。具体的には、埼玉県内の各地に居る会員が、それぞれの地元でのイベントに出展したり、自らイベントを企画したりする「彩の国 木の家づくり巡回展」を行っています。

木の家ネット埼玉
きのいえねっと どっと さいたま
木の家ネット・埼玉
http://kinoie-saitama.seesaa.net

木の家ネット埼玉のマークと、メンバー主催の完成見学会の際に、共通パネル展示をしている様子

まずは、メンバーで話し合った共通認識にもとづいた「共通パネル」を作成。それぞれのイベントでは、それに「個人パネル」を加えて展示。ほか、木組み模型展示、小物製作、かんな削りによるフラワーアートなど、来場者に積極的に楽しんでもらえるようなメニューを加えています。最近では、滋賀の「くむんだー」を取り入れ、木のふれあいまつり、エコプロダクツ川越など、さまざまなイベントで人気を博しています。「それぞれの地元での木の家ネットの会員同士のつながりを活かすことで、木の家づくりを広めていってほしいです」と綾部さんは語っていました。

Like 0　ポスト
1 2 3

総会会場となった海辺の果樹園ホテルは、高知きってのリゾートホテル。大変お世話になりました。公式サイトは こちら

関連する記事はこちら

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり

鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る

NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！

設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

このまちにずっと残っていてほしいあの家も「既存不適格」？

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を
2018年2月7日 「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」 ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ
2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット
2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：倉敷大会 -民家改修と曳家-
2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました！
2017年9月4日 家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
2017年6月30日 気候風土適応住宅のススメ
2017年6月3日 掛川総会３
2017年5月31日 掛川総会２

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 18件のビュー
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー
工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 9件のビュー
大工・池上算規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで 8件のビュー
大工たちによる「家戻し」の記録 8件のビュー
大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー

この記事のタグ
このまちなみを次世代に
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2007年4月1日 設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
2009年11月27日 「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート
2012年11月30日 第12期木の家ネット総会 栃木大会
2008年7月26日 このままでは伝統構法の家がつくれない！
2009年1月26日 伝統木造設計法構築に向けて、実物大実験！

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

【会員発表篇】
高知
木の家ネット 第15回総会
KOACH
大会報告

会員発表後にひらかれた宴会では、藁焼のタタキなどのごちそうが並びました。

1 2 3

Like 0　ポスト

第二部 後半
問題提起タイム

弟子を育てよう

宮内建築 宮内 寿和さん（滋賀）

弟子を育てるには、給料、道具、保険、住む場所など、さまざまな経費がかかり、親方としてそれをかかえていくことは大変なことです。そのために、仕事をとり、段取りをし、資金繰りとし、と苦労は尽きません。また、命と人生を預かることもあり、大きな責任を負うことにもなります。しかし、親方本人は「いつまでも若くない」。だから「弟子を育てよう！」というメッセージが、自らも３人の弟子を総会に連れてきている宮内さんからありました。

次の世代を育てていかなければ、ずっと伝わって来た木の家づくりは、先につながっていきません。弟子を育てることは、技術の伝達にとどまらず、人に信頼され、技術を教えてもらえたり仕事を任せられたりする人柄を育て、ものごとをやり抜くことのできる精神力や忍耐力を培い、やってはいけないことを教えることでもあります。また、弟子を育てることは、何が大切なのかを再確認することにもなり、自らが学ぶことにもつながります。

宮内親方の熱い話

総会会場には、親方と一緒に来ている弟子たちもいました。「自分を超える弟子を育てられなければ、半人前」と語る宮内さんの発表をどのような想いで聴いていたでしょうか。「大変だけれども、みんなで頑張って次の世代を育てていきましょう」というエールで、宮内さんの発表は締めくくられました。

最近、困っていること

おおしま家大工店 大嶋 健吾さん（三重）

工務店を経営していく中で、大変なのが資金繰り。請けた仕事の代金を、いかにして各職方や弟子達に支払っていくか。ひとつが滞ったり、遅れたりすると、首がまわらなくなる危険がいつもあり、仕事をまわしていきながら頭を痛めるところでもあります。

また、会社形態にしているかどうかによっても、厚生年金、健康保険、雇用保険といった弟子の福利厚生の扱いも変わります。赤字を翌年以降へ繰り入れができるか、立ち行かなくなった時に公の助成金や再建制度を使えるかどうかといった違いもでてきます。

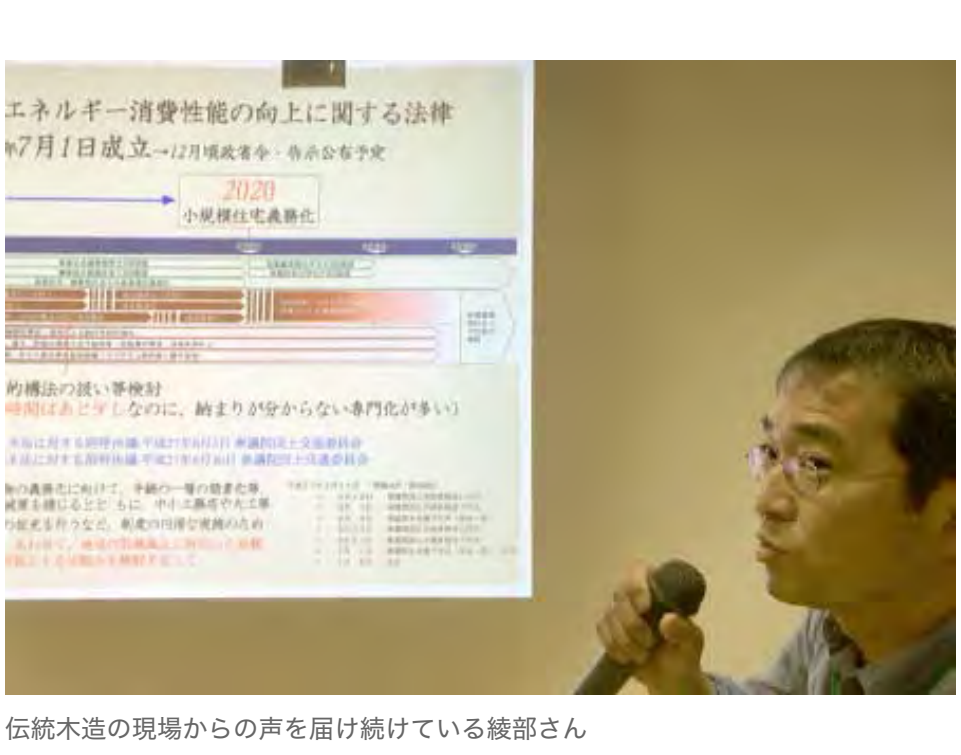
手をかけた丁寧な仕事をしていればこその悩みを共有できるのも、木の家ネットの良さ

それぞれに抱えていながら、なかなか語り合うことのなかった、このようなナイーブな問題について、大嶋さんは自らの置かれている立場を語りつつ、参加している仲間に問いかけました。経営はつねに順風満帆というわけにはいきません。むしろ、苦しい面が大きいのが大半です。経営経験の長い先輩方からのアドバイスがあったりもしながら、夜の分科会で続きが深く語られたようです。こうしたことを打ち明け合える仲間が居ることが実感できる総会になったのではないでしょうか。

第三部
改正省エネ法義務化にむけて
「まずは計算してみよう」

次に、綾部孝二さん、古川保さん、和田洋子さん、川端眞さんのナビゲートにより、2020年に義務化が予定されている改正省エネ法を「自分ごと」としてとらえるためのプログラムが行われました。

木の家ネットの多くの会員が手がける「木組み土壁の家」が、改正省エネ法の義務化でどのように扱われていくのかについて、まず、綾部さんが発表しました。「内外真壁の土壁は特例として認められる動きがあるようですが、実際の施工では外に板を張って大壁にする例も少なくないですよね？ このままいけば、板を張るなら、土壁との間に断熱材を入れろと言われるようになるんです」と、綾部さん。


伝統木造の現場からの声を届け続けている綾部さん

「内外真壁だけに限らず、伝統木造には断熱に変わる環境的な価値があります。また実際には、木組み土壁の家に住む人のエネルギー使用量の調査をしてみると、低エネルギーでの暮らしができているという実態があります。長寿命、低エネルギーなど、その価値をしっかりと認識し、表明し、訴えていくことで、道を拓いていくしかありません。みなさん、地元に帰って、このことを口にしてください」と綾部さんは皆に訴えました。

次に、古川さんが「まず、義務化になった時にやらされる外皮性能の計算を、自分が普段やっている仕様に合わせて計算してみる」というワークショップをしました。計算を簡単にするために、伝統木造でよくある建物ということで、伝統的構法の性能検証実験の時にE-ディフェンスで揺らした家をモデルにしました。省エネの計算に必要な外周や面積、開口面積などはすでに求めてあります。あとは、それぞれが「普段、床、壁、天井にどんな断熱材をどれだけの厚みで入れているか」ということを、いくつかの選択肢から選んでいきます。

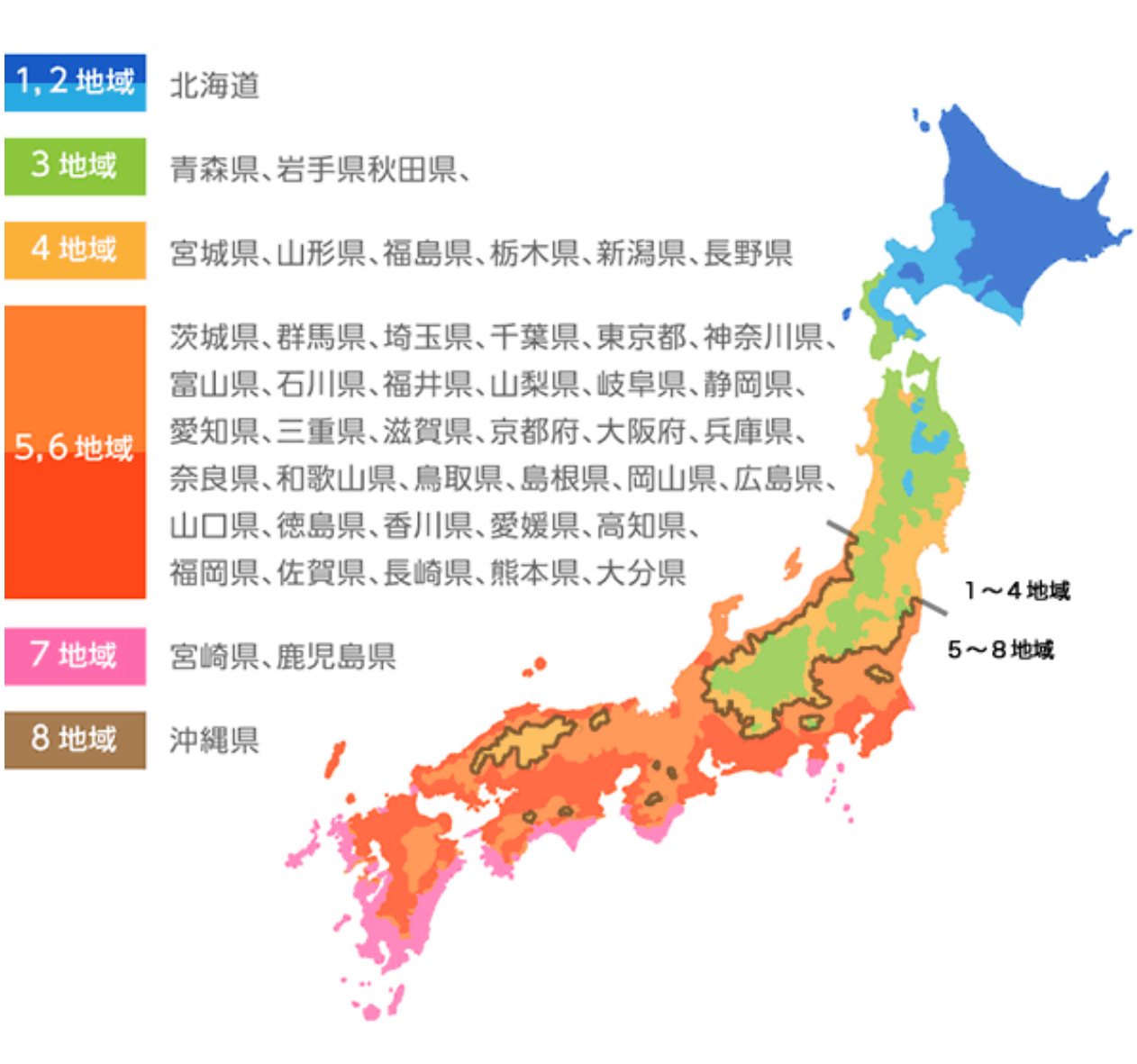
iPhoneで計算をする会員

古川さんのガイドで計算をし終わった人が、口々に数字を言っていき、それを集めていきます。「1.84、1.22、2.04、1.73、1.99…」

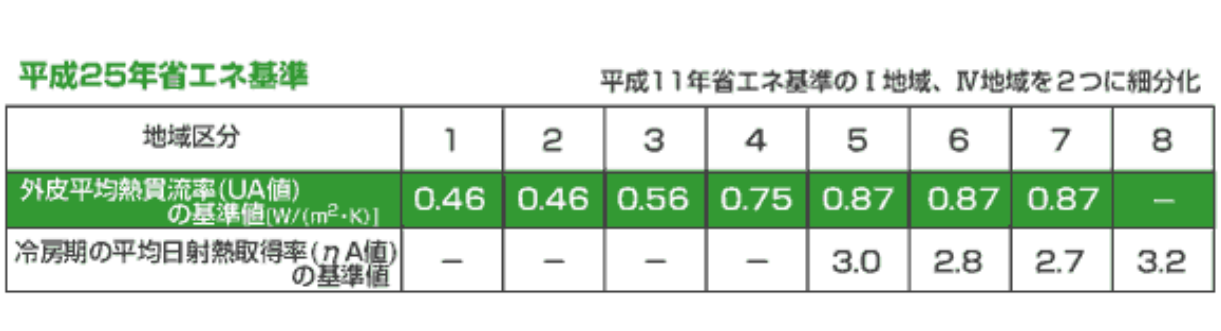
さて、温暖地での満たすべき外皮性能は、新潟であろうと、奄美大島であろうと「0.87」これよりも高い数値になれば「断熱が足りない」ことになってしまいます。会員の計算結果を順に読み上げていきましたが、改正省エネ法の外皮性能の基準を満たす数字は、なんと、ひとつもありませんでした。

「どんなにがんばって断熱材を入れてもムリです。というのは、みなさん、南向きに縁側のある掃き出し窓をするでしょう？ 窓が多いでしょう？ 開口部が多すぎでダメ。全部をペアガラスにしても追いつかないですよ」

「国家再生戦略としての省エネの目的は、じつはエコロジーでなく、エコノミー。だからエコロジーのためには必要ないようなことでも、経済を循環させるために強制される。たとえば、暖房料金が年間2万7千円しかかかっていない九州でも、費用を120万かけての断熱化を求められる」という話に、参加者は頭をかかえていました。


1,2 地域　北海道
3 地域　青森県、岩手県秋田県、
4 地域　宮城県、山形県、福島県、栃木県、新潟県、長野県
5,6 地域　茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県
7 地域　宮崎県、鹿児島県
8 地域　沖縄県
1～4 地域
5～8 地域

全国を気候別に８つの地域に分けて基準が示される。



平成25年省エネ基準　平成１１年省エネ基準のⅠ地域、Ⅳ地域を２つに細分化

地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8
外皮平均熱貫流率(UA値)の基準値[W/(m²・K)]	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	–
冷房期の平均日射熱取得率(ηA値)の基準値	–	–	–	–	3.0	2.8	2.7	3.2

線より南西が、温暖地である５地域から7地域。新潟でも奄美大島でも、必要とされる外皮性能の基準は「0.87」以下。

古川さんは、地域別、用途別のエネルギー使用量の統計を見せてくれました。本当に力を入れるべきは、給湯や要らない家電の削減であることが明白です。それでも、暖房効率をあげるための断熱化だけが突出して推進されるのは、いかがなものでしょうか。

不思議なことに、同じ政府から「和の住まいのすすめ」という、日本の気候風土に合った住まい方、暮らし方を推進するパンプレットが出ています。古川さん曰く「このパンレットで紹介されている家の外皮性能を計算してみてみたら、2.9ぐらいでした。まず、改正省エネ法はクリアしないですね」

和の住まいのすすめ
今に生きる日本の住まいの知恵
和の住まい推進関係省庁連絡会議

「和の住まいのすすめ」
国土交通省のサイトからダウンロードできます。

「伝統的な建築ができなくなることのないように」と、国会でも議論されています。伝統木造関係者以外でも「この外皮基準は行き過ぎではないか」と意義を唱えている人たちもいます。JIAや建築士会でも「外皮基準の適用を除外できる住宅」として、各都道府県の建築士会で「地域型住宅」を定めていこうという動きもあります。

古川さんが考えている作戦は「トレードオフ」。外皮性能を満たしていなくても、かわりにこういう環境的なメリットがあるのだから、差し引きで帳消しにする、という論法です。「景観は0.2、職人の雇用は0.1、ゴミ問題は0.3、耐久性は0.2…」と積み上げていけるようなしくみができないか、と。

エネルギーを無駄遣いすることを抑制し、省エネを推進しようとすること自体は、よいことです。しかし、省エネ性能を評価する基準が、外皮性能にのみ置かれてしまうと、特に温暖地においては、その地域らしい開放的な住まい方や家の耐久性を損なうことになるのでは？ 費用対効果のうすい断熱化を強要することは、居住者の経済的負担をいたずらに増すことにならないか？

「みなさん、私たちはすでにまわり始めている大きな歯車の中にいるんですよ。生き延びていく道を探らなければ、この中に組み込まれてしまいます。逃れられないのです。だからこそ、ことあるごとに意思を表明しつづけなくてはならないのです」という呼びかけが、強く印象に残りました。

改正省エネ法担当の古川さん

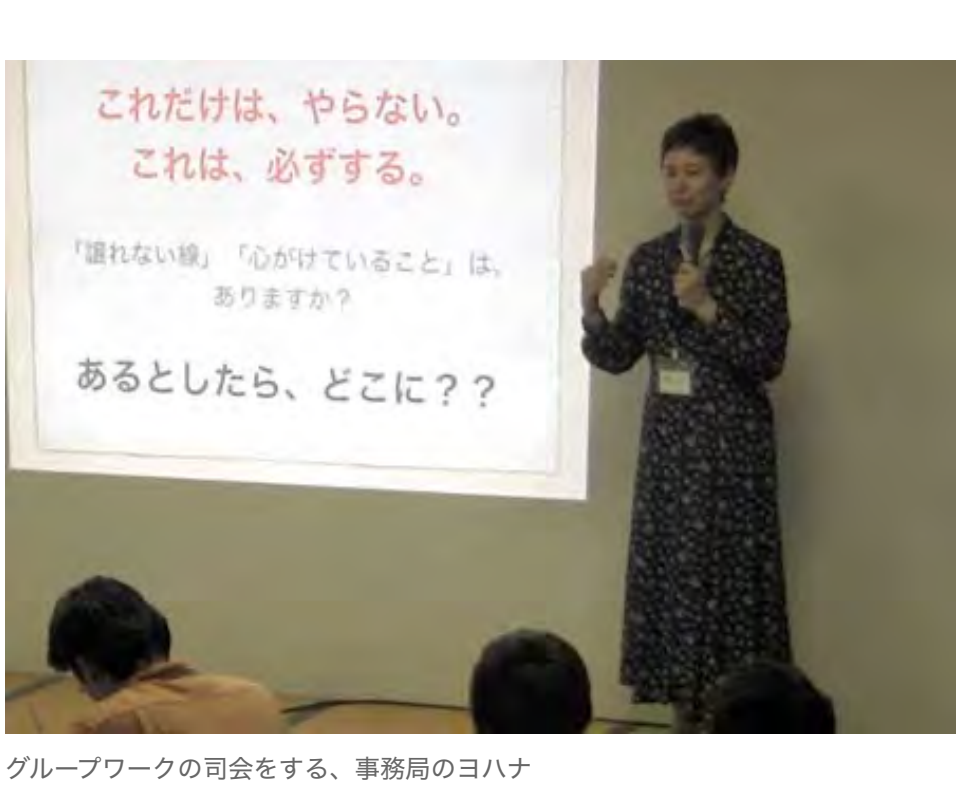
その後、川端さんから「木組み土壁の家で、エコポイントをゲット！」という事例発表がありましたが、専門的すぎるので内容は省略させていただきます。

第４部
「木の家ネットの基本」

絶対に譲れないものは何？

木の家ネット事務局 持留 ヨハナエリザベート（山梨）

総会の中の総会の最後は「そもそも木の家ネットの基本はどこにあるの？」という原点にたちかえるためのグループワークを行いました。

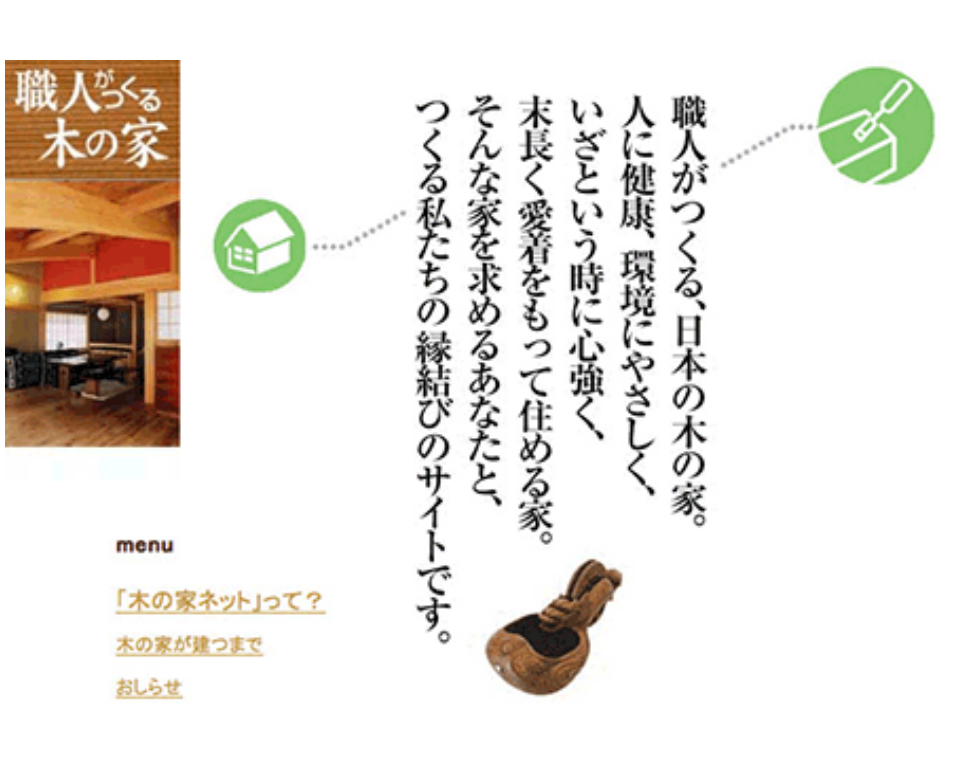

これだけは、やらない。
これは、必ずする。
「譲れない線」「心がけていること」は、ありますか？
あるとしたら、どこに？？

グループワークの司会をする、事務局のヨハナ

24時間換気の義務化、瑕疵保険、石場建て問題、改正省エネ法…。木の家ネットが発足して以来、伝統木造が法律的にも造りにくくなるような事が次から次へと起きてきました。その度に、そうした問題が起きていること、問題のどこがポイントなのかを明らかにし、木の家ネットのつくり手としてそれをどう捉えるかを考えてきました。

そして、必要な時には意見をとりまとめ、パブリックコメントや国土交通省への申し入れなどといった行動も起こしてきました。検討委員会の動きに実務者として深く関わることもしてきました。そのため「木の家ネットは、石場建て、土壁の伝統構法ばかりを追求している人たちの集まり」などと見なす人もいます。

「どこまでが伝統構法？どこからが在来工法？」といった線引きや定義をしはじめると切りがない面もありますが、木の家ネットの原点は意外ともっとシンプル。そのエッセンスが、入会を希望する人にまず読んでもらう「木の家ネット宣言文」という、たった85字の短い文章が凝縮されています。



職人がつくる、日本の木の家。
人に健康、環境にやさしく、
いざという時に心強く、
末長く愛着をもって住める家。
そんな家を求めるあなたと、
つくる私たちの縁結びのサイトです。

2001年10月にオープンした時の木の家ネットのトップページ。宣言文が中央に表示されている。

これは法律でいえば憲法にあたるようなもの。立ち上げ当初の木の家ネットには、この宣言文の各文節をかいつまんで解説しているページもありました。そこで述べられているのは「人から人へと伝えられて来た」「手の技術」「木を見ること」「山とつながる」といった、ごく基本的なこと。そこに線引きや条件づけなどは、特にありません。

全員でこの宣言文をひととおり読み直したあと、３つのグループに分かれて、想いを語り合いました。ひとりひとりが大事にしていること、これは譲れないということは何なのか。車座で時間ぎりぎりまで、語り合いました。

各グループで話されたことの結果が、この後の宴会の時に発表されました。「建て主さんやさまざまな職方との間の、いっしょにつくっていくという信頼関係が大事」とか「基本的に木が好きだから、木をよりよく生かす方向で使いたい」という意見が共通して聞かれ、家をどうつくるか、という技術的な要素よりも「人や木とどう向き合い、どのようにつくっていくのか」に重点が置かれているようでした。

分科会へ

それぞれのテーマは、引き続き宴会後の「分科会」に引き継がれました。ひとりひとりの希望に沿って、「弟子育成」「経営問題」「くむんだー」「改正省エネ法」「木の家ネットの基本」５つの部屋に分かれ、夜11時過ぎまで、深い話し合いがもたれました。第15期のコンテンツは、ここで語られたことの延長線上で企画していきたいと考えています。どうぞお楽しみに。

Like 0　ポスト

1 2 3

恒例の集合写真。裏方仕事中の沖野和賀子さんをうっかり撮りそこねてしまったので、丸枠で失礼します！

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2016年12月23日 掛川総会
2016年8月2日 込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
2016年6月21日 熊本震災レポート2
2016年6月9日 大工たちによる「家戻し」の記録
2016年5月21日 熊本震災調査レポート
2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
2016年3月31日 2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート
2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを探る 〜2016.1.17 京都フォラム報告
2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会 〜会員発表篇〜
2015年11月13日 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

人気のある記事
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 18件のビュー
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 9件のビュー
大工・池上算規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで 8件のビュー
大工たちによる「家戻し」の記録 8件のビュー
大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー

この記事のタグ
このまちなみを次世代に
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2008年9月27日 鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る
2001年11月25日 工務店・渡邉隆さん(風基建設)：五十年後、百年後に木の家が残る環境をつくること
2009年1月26日 伝統木造設計法構築に向けて、実物大実験！
2008年11月28日 第八期木の家ネット総会・小江戸川越大会のレポート
2009年11月27日 「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート

関連する記事はこちら

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る
NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！
設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ
このまちにずっと残っていてほしいあの家も「既存不適格」？

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464